

### ◆痙縮（けいしゆく）について

脳卒中の後遺症としてみられる運動障害の一つに痙縮（けいしゆく）という症状があります。痙縮とは、意思とは関係なく筋肉の緊張が高まり、手や足が勝手につっぱったり曲がってしまったりしてしまう状態のことです。痙縮では、手の指が握ったままで開きづらい（清潔にしにくい）、肘が曲がり伸びづらい（着替えなどしにくい）、足の先が足の裏側の方へ曲がってしまう（歩くと痛い、装具がつけにくい）などの症状がみられます。痙縮による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まって関節の運動が制限されてしまう拘縮（こうしゆく）という状態に陥り、ご本人やご家族の日常生活に大きな支障をきたしてしまいます。また、痙縮そのものがリハビリテーションの障害となることもあるので、痙縮を治療することによりリハビリテーション（ストレッチ含む）がしやすくなります。

### 痙縮（けいしゆく）



●筋肉が緊張しすぎてしまう状態で、手足がこわばったり、つっぱったりします。

●片まひと同じ側の手足にあらわれることがほとんどです。



### ◆痙縮の治療について

痙縮の治療には、内服薬、ボツリヌス療法、神経ブロック療法、外科的療法、バクロフェン髄注療法などがあります。実際、痙縮の程度や範囲、患者さんの希望などを考慮し、リハビリテーションとこれらの治療法を組み合わせることで痙縮の治療を行います。

### ◆ボツリヌス療法について

ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出すボツリヌストキシンと呼ばれるたんぱく質を有効成分とする薬を筋肉内に注射し、痙縮の改善を図る治療法です。ボツリヌストキシンを筋肉内へ注射すると、筋肉の緊張をやわらげ、痙縮を改善することができます。ボツリヌス菌そのものを注射するわけではないので、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません。

### ボツリヌス療法



●つっぱったり、こわばっている筋肉に、直接お薬を注射します。

●注射した筋肉のつっぱりやこわばりをやわらげます。

### ◆ポツリヌス療法の効果について

ポツリヌス療法によって、次のような効果が期待できます。

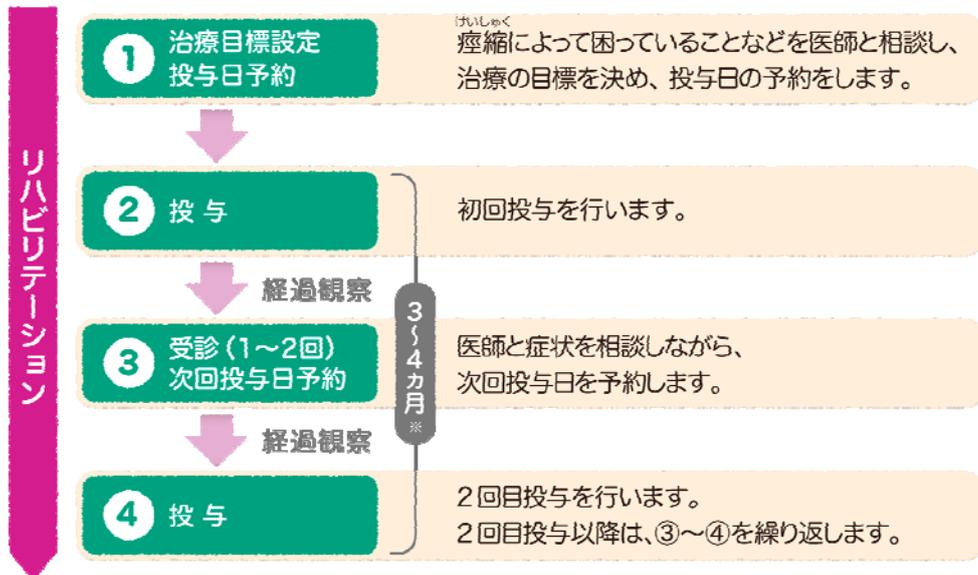
- ① 手足の筋肉がやわらかくなり、曲げ伸ばしがしやすくなることで、日常生活動作の制限が軽減されます。（手を洗いやすくなる、装具がつけやすくなる、くつが履きやすくなる、など）
- ② リハビリテーション（ストレッチ含む）を行いやすくなります。
- ③ 関節が固まって動きにくくなったり、変形するのを防ぎます（拘縮予防）。
- ④ 痛みをやわらげる効果が期待できます。
- ⑤ 介助の負担を軽減することが期待できます。（着替えの補助、衛生ケアがしやすいなど）



### ◆ポツリヌス療法の進めかたについて

まずは診察をし、治療方針と目標を設定します。ポツリヌス療法の効果は、注射後 2-3 日目から徐々にあらわれ、通常 3-4 ヶ月間持続します。その後、数週間で効果は徐々に消えてしまうので、治療を続ける場合には、年に数回、注射を受けることとなります。ただし、治療効果や持続期間には個人差があるので、医師と相談をしながら治療計画を立てていきます。

## ● 治療スケジュール例



※次の投与までの期間には個人差があります。

### ◆ボツリヌス療法の具体的な治療方法について

細い針で数か所、緊張をゆるめたい筋肉に注射をします。治療時間は約 20 分から 30 分くらいです。

### ◆ボツリヌス療法の副作用について

ボツリヌス療法を受けた後に、副作用として以下のような症状があらわれることがまれにあります。これらの症状は多くが一時的なものです。症状があらわれた場合には、医師に相談してください。

- ① 注射部位が腫れる、赤くなる、痛みを感じる
- ② 体がだるく感じる、力が入りにくい

### ◆ボツリヌス療法の治療費について

当院で行う上肢・下肢痙縮の治療は保険が適応されます。通常 1 割～3 割負担で治療が受けられます。注射を行う部位や、範囲によって費用が異なります。また公的支援制度の助成により、ご自身の負担が軽減出来ることもあります。